



し、東日本大震災では、先ず災害派遣部隊となった第9師団司令部を県庁内に設けて「できるだけ早く、一人でも多くを助ける」人命救助に対処した。折しも6月に予定する隊友会支部総会で演題「二つの大震災から学ぶ」の防衛講話が予定されており、参加者の関心も高く大変盛り上がった話題となった。

宴は終了予定の午後1時になっても収まらず、延長することとなったものの、日本一と言われる弘前公園での部隊OBの花見を控えている北畠、櫻庭、中村会員が居り、和やかな中で片付けに入った。

2時間半に及んだ花見は、秋の総会での再会を期して児童公園を後にした。

なお、弘前駐屯地創立58周年記念日は、一週間遅れて26日の日曜日に予定され、多くの市民が訪れ、観閲行進や模擬演習を楽しみ、津軽地方の銘酒に囲まれた記念会食が待っている。本記事を書いていた20日夕方、青森県でも震度5、津波警報、北海道・三陸沖後発地震注意情報が発表された。

岡山県偕行会

令和8年度定期総会

岡山県偕行会は、去る5月17日(日)午前10時から、岡山地方協力本部会議室等において次により、総会等を開催した。

1 定期総会

参加者は、元自衛官7名で、午前10時、開会の辞に続き国旗に敬礼・国歌斉唱、続いて陸自75期角南会長が開会の挨拶を行い、議事に入った。

議案は、令和7年度事業実績報告、同収支決算報告、監査結果報告が承認された後、令和8年度事業計画並びに予算計画について審議し、滞りなく承認された。

特に、令和7年度事業実績報告では、事業推進施策として「忠魂碑等の現況調査の継続」を図り、「吉備の国巡礼ウォーク」に参加し、8か所の忠魂碑の現況を

把握した。

また、昨年度から実施をしている「近現代史・思想の調査及び研究」の第3回の催しとして、令和7年12月浅口市金光町において、昭和5年11月広島県福山市から岡山市一帯において実施された陸軍特別大演習を实地に研修し、昭和天皇陛下が現在の浅口市金光町において本演習を統監された史実を本陸軍特別演習・史跡等を長年調査研究している前川会員の企画により八重山地区において研修し理解を深めた。

令和8年度事業計画では、方針として「世代交代による内部態勢の充実を図りつつ、偕行社設立の根本精神「英霊に敬意を」「日本に誇りを」を継承し、戦没者の慰霊顕彰及び陸上自衛隊への支援を主体に事業を推進」し、また「近現代史・思想の調査及び研究を実施する」事を重点に事業を推進していくことにして全員の賛同を得た。

2 講演会並びに情報交換会

その後、場所を移して、昨年度同様に岡山県隊友会との共催行事として、11時30分から約1時間、陸上自衛隊第13旅団長 橋爪陸将補による「我が国を取り巻く情勢と日本の安全保障」と題した防衛講話を拝聴した。

橋爪良友陸将補は、歴史的に変遷を重ねてきた軍事ドクトリン、ヨーロッパ、

アメリカ、ロシア、日本などの安全保障に関する基本的な考え方の変化、また自衛隊の防衛に関する国際情勢に伴う進化に関する話をわかりやすく聞くことが出来て大変有意義であった。

続いて、13時15分から情報交換会を実施したが、岡山県隊友会と共催のため旧知のOBとも再会して現況を交換し合うなど、相互理解を深めた。

約2時間の楽しい時間はあっという間に過ぎて、名残惜しかったが来年の再会を約して散会となった。

(広報担当理事 陸自81期 網島俊昭)

